

日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名（研究番号） 難治性気胸の治療—間質性肺炎による続発性自然気胸の治療目標を再考する—

(No.)

当院の実施責任者 坪島顕司（気胸研究センター）

(所属)

他の研究機関および なし

各施設の研究責任者（所属）

本研究の目的

自然気胸とは何らかの原因で肺から空気漏れが起こってしまう病気です。その中で様々な治療を行っても肺からの空気漏れが続く場合や、一旦治癒しても再発を繰り返す自然気胸を難治性気胸といいます。そうした難治性気胸の原因の1つが間質性肺炎（IP）です。間質性肺炎を患っている方は、もともと呼吸状態が悪いこと等もあって、治療選択肢が限られており特に治療に難渋します。一般的に自然気胸の治療では、胸の中に管（胸腔ドレーン）を入れます。肺からの空気漏れが停止し、肺が完全に膨張した状態で胸腔ドレーンを抜去することを目指しますが、本疾患の場合は達成困難なことがあります。特にIPを発症している患者様の肺は通常よりも硬くなってしまう特徴があり、肺が元の大きさまで膨張しないことも珍しくありません。そのため一般的な治療目標を当てはめると、いつまでも胸腔ドレーンが抜去できないことや、何度も胸腔ドレーンを挿入することになります。そのため先の見えない入院を継続する必要が生じてしまい、患者様の望まない治療となっている可能性があります。このように考えると、全身状態や患者様の希望などを十分に配慮したうえで、ある程度肺が虚脱した状態であっても胸腔ドレーンを抜去することや時に胸腔ドレーンを留置したまま帰宅することも治療のゴールなのかもしれません。このような治療目標の妥当性について、2019年1月～2024年4月までに間質性肺炎が原因で自然気胸を発症し当院で入院加療を行った方を対象にカルテの情報を使って調査する予定です。

本研究を学会、論文発表することで、患者様の状態やご要望にあわせた治療に役立つことが期待できます。

調査期間

倫理委員会承認日から2025年3月31日まで

研究の方法

(使用する試料等)

●対象となる患者さま

当院で2019年1月から2024年4月までにIPに対し入院治療を受けた方

●利用する情報

カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します

●利用又は提供を開始する予定日

倫理委員会承認日から

試料/情報の他の研究機関への 提供および提供方法	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報 は削除し解析を行います。また、研究成果は学会や論文等で発表を予 定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しま せん。本研究のために収集したデータは、研究終了後5年間保管し、 その後はすみやかに消去します。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません
お問い合わせ先	電話：03-3700-1151（代表） 担当者：坪島顕司
備考	